

人権さんだ

5 月号

令和7年(2025)

No.554

中学生の人権作文

《問い合わせ》
健康福祉部 人権共生推進課
TEL: 559-5148 FAX: 563-7776
E-mail: jinken_u@city.sanda.lg.jp



イラスト：TETSUYA

ゆりのき台 駒ヶ谷運動公園体育館横 にて

神戸地方事務局・兵庫県人権擁護委員連合会・神戸新聞社 主催

第43回全国中学生人権作文コンテスト兵庫県大会

昨年度実施された第43回全国中学生人権作文コンテストの兵庫県大会で、市内の中学生の人権作文が奨励賞を受賞しました。今号では、その2つの作文を紹介いたします。

第43回全国中学生人権作文コンテスト兵庫県大会 奨励賞
同伊丹地区大会 最優秀賞

「こぼさない器」
三田市立八景中学校3年(前年度)
川岸 心桜さん

「繰り返してはいけない歴史」
三田市立狭間中学校3年(前年度)
菅長 楓さん

お二人の中学生の作文を読んで、皆さんは何を感じますか？

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

「こぼさない器」

八景中学校 3年（前年度）

川岸 心桜さん

自死。これは、当事者とその人の周りにいる関係者の心情をくんだ言葉だ。二〇一三年三月、島根県が県の「自死対策総合計画」における表現を、すべて「自死」に統一した。遺族の方から、自殺の「殺」という文字が使われているため大変つらい言葉であり、使わないでほしいという要望があったからだ。そこで島根県では、そのような要素が薄く、遺族等の心情に寄り添った言葉として「自死」という言葉を使うようになった。広く社会に定着している「自殺」とは違うこの言葉を耳にしたときの衝撃。私は、この言葉の背景を考えるとともに、自分にできることを見つけたいと思っている。

「困ったときには、頼れる人に相談してください。」これは、先日私の学校で行われた自殺予防講習会のときに、警察の方がお

しゃった言葉だ。このとき私は、つらいときにいつも真っ先に相談に乗ってくれる先生の顔が頭に浮かんだ。先生は、いつも親身になって私の話を聞いてくれる。言葉が途切れても、静かに次の言葉を待っていてくれる。不思議と、いつの間にか楽になっている自分。たくさんのアドバイスをもらって、色んな見方に気づき始める自分。逆に、うれしいことがあったときに話す友達や家族の顔も頭に浮かんだ。うれしかったことを話すと、そのときの気持ちがいかに共有することで、自然と笑顔になっていく。こういった日々のつながりが、自死を食い止めていくのではないだろうか。あなたは、うれしいこと・幸せなこと・悲しいこと・つらいことがあったとき、心の中にあるそれらの思いを、周りの人に伝えられているだろうか。誰かに伝えることで楽になったり、周りで支えてくれる人も、伝えてもらうことで安心できたりする。そして両者に、信頼と絆が生まれる。

これこそが、自死という悲しい結末を迎えないための最後のとりでとなるのではないだろうか。この講習会は、普段から何でも言える先生・友達・家族の存在がいかに大切かを改めて感じることができた、貴重な時間となった。

私は、毎年夏休みに人権ポスターを描くことで、人権とは何かを見つめ直し、それをみんなに伝える活動をしている。また、生徒会活動の一つであるあいさつ運動を通して学校を明るくしたり、全校朝会で「今月の言葉」を伝えることで、全校生徒に元気を与えられるような取り組みを行ったりしている。さらに、生徒の心の中にあるモヤモヤを、紙に書いて入れてもらう「このBOX」を設置するのも、現在検討中である。私は、この「このBOX」に入れてもらった生徒一人一人と真剣に向き合い、その人の気持ちを少しでも軽くできたらと思っている。

「自殺」という言葉が怖いのは、その人を大切に思う人の

存在や気持ちがあるからだ。救いたかった命、救えなかった命。こぼれてゆく命がなくなるように、残された人の思いをくり返さないために、私たち一人一人がつながり、「こぼさない大きな器」となろう。「自死。」この言葉を聞くことのない社会をつくっていくために、私はこれから、困ったときに心の拠りどころとなってもらえるような存在でありたいと思う。そして先生・友達・家族の存在を当たり前だと思わず、日頃から感謝し、日々のつながりを大切に過ごしていきたい。

私は一人じゃない。あなたは一人じゃない。この言葉をしっかりと胸に刻もう。この思いをできるだけ多くの人に伝えることで、周りの人の大切さに改めて気づくことができる人が増え、すべての人の未来が明るく照らされる社会へとつながることを願っている。

人権さんだアンケート

ご感想や今後取り上げてほしいテーマをお寄せください。



「繰り返しては いけない歴史」

狭間中学校 3年（前年度）

菅長 楓さん

「戦争の日しか生きられなかったね」

これは長崎の被爆二世の語り部さんから聞いた、語り部さんのお父さんの実体験の話です。この言葉は、語り部さんのお父さんが実際に原爆によって死んだ弟にかけた最後の言葉でした。

まだ小さかったこの弟は、戦争中に生まれ、戦争の終わった翌日に亡くなりました。弟は戦争中でしたか生きる事ができなかったのです。戦争のない生活を送る経験ができないまま、死んでしまったのです。今の私のような毎日学校に通い、おいしいご飯を食べたりする、普通の生活がどれだけ幸せなのか、そもそも幸せが何なのかわかることなく死んでしまったのかもしれない。その後、毎日のように兄弟は死んでいったそうです。最後に残ったお姉さんは、立ち上がり、両手を上にあげて、「天皇陛下、万歳」という言葉を残して、亡くなられたそうです。

私はこの話を聞いて、言葉では表せないような重く苦しい気持ちになりました。こんな日本はおかしい、

こうさせた戦争というものに対して強い憎しみを抱きました。この時代の人たちは戦争という非現実な世界に身を置き、その日の命ですら確実ではない日々、人の死がある意味日常にまでなってしまうという、怖く悲しい毎日を生きてきたのです。

私は、語り部さんから学んだことを胸に長崎へ修学旅行に旅立ちました。修学旅行では原爆資料館や平和公園に訪れました。学校では平和学習として戦争について勉強をしていたのですが、座学として学ぶだけでは決してわからない、自分の目で見ることによって感じるものがたくさんありました。原爆資料館では背中が熱線によって焼きただれた男性の写真、原型がわからなくなったガラス瓶、被爆者の手記、十一時二分に時が止まった時計、どれも私には直視できない現実でした。これがフィクションでなくノンフィクションなんだと、誰か信じることができたでしょう。それほど原爆の悲惨さに声を失ってしまうほどでした。しかし、語り部さんの思いや言葉が頭をよぎり、この現実から逃げてはいけないという強い思いに駆られ、この惨たらしい世界を目に焼き付けなければとただただ必死でした。

ある日、ドラマの再放送を見ていたとき、特に感動なシーンでもない

のになぜか母が涙を流していました。その理由を聞くと、「今流れているドラマの主題歌はMISAの「逢いたくていま」という曲なんだけど、MISAが知覧特攻平和会館に行つて、実際に家族や大切な人への遺書を読んで、できた曲なんだよ。一度知覧特攻平和会館や特攻隊のことについて調べてみるといいよ。もう曲を聞いただけで、歌詞の世界を想像しただけで、涙が止まらなくなるから」と言われました。調べてみたところ、鹿児島県知覧では最南端の特攻基地として、第二次世界大戦時四百三十九名の若者たちが戦死しました。特攻とは、爆弾を装備した飛行機もろとも敵艦に体当たりする必死の攻撃で、その出撃は「死」を意味していました。もう負けるだろうとわかっている戦争に、若者たちはたった一つしかない大切な命を賭けて、愛する人を守るために出撃したわけです。隊員たちも怖かったことでしょう。無念だったことでしょう。その若者たちを戦地に送り出した女性たちもどれだけ辛かったことか、想像しただけでも涙の出る思いでした。

私は当たり前ですが戦争を知りません。私の祖父母ですら戦争を知りません。身近で戦争を経験した人の話を聞く機会もほぼありません。私

の戦争の知識は歴史の教科書に載っている過去の出来事であり、平和学習で学んだ知識しかないのです。でも今の私たちがこのように平和に暮らせていられるのも、戦争で多くの命が失われた犠牲のうえに成り立っているともいえると思います。私は戦争を知らないから、などと絶対に言うてはいけないと思います。生きたくても生きられなかった人たちが、死にたくなかったのに死にゆくしかできないかった人たちが、その人たちの思いを汲んで私たちは戦争という過ちを二度と繰り返してはいけません。そして次世代に語り継いでいかなくてもなりません。それが戦争で尊い命を失われた多くの人たちに対して、私たちができることではないでしょうか。

今、私たちが生きているこの日本は、平和だと思われがちですが、今もなお原爆の後遺症で苦しんでいる人、戦争で大切な人を亡くして苦しんでいる人は多くいます。そして今まさにこの時間、この瞬間、世界では戦争をしている国もあります。武器を持って人と人が殺し合うことに何の利益があるのでしょうか、何の未来があるのでしょうか。もっと平和について考えるべきだと、そして私は何よりも平和な世の中であることを強く望みます。

令和6年度 じゆしやう
ラブピース4コマまんが受賞作品
「なかよし」



すずかけ台小学校 1年 (前年度)
おかだ こうじ
岡田 晃治 さん

みなさんは「ルッキズム」という言葉を聞いたことがありますか？ ルッキズムとは、外見や容姿によって人を差別すること、人を見た目で判断する価値観のことをいいます。

今回紹介するマンガ「ブスなんて言わないで」では、高校時代にブスであることを理由にいじめられ、大人になっても心に傷を負っている女性が主人公です。



「ブスなんて言わないで 1〜4」とあるアラ子(著)
講談社アフタヌーンKC

書籍貸出
こちらからお申込みください



人権共生推進課
TEL:559-5148
FAX:563-7776

ある日、高校時代の同級生で、「美人」の女性が美容研究家として活躍していることを知ります。ブスであることに長年苦しんできた主人公は、同級生がルッキズムを否定し、容姿にかかわらず「自分に自信を持ちましょう」と訴えていることに怒りを感じ、**とんでもないこと**をするために出会いに行きます。(第1・2話)

二人の意見のぶつけ合いを通して、どちらの考え方が「正しい」のか、読者も一緒に考えられます。主人公自身が、**イケメン**の男性に惹かれる場面もあり、社会のいろいろな場面にルッキズムの影響があることに気づかされます。

令和7年度
市民啓発講座
のご案内

入場無料
手話通訳・
要約筆記あり



【テーマ】「**無戸籍の人を支援する**」

【日時】5月17日(土) 15時~16時30分

【場所】まちづくり協働センター(多目的ホール)

【講師】市川 真由美さん(無戸籍の人を支援する会 代表)

【定員】約150名

【内容】私たちは、無戸籍の問題に直面する人々を支援するために活動しています。無戸籍であることは、教育、医療、就職など多くの権利が制限される深刻な問題です。無戸籍の人々が平等に社会の一員として生きていけるよう、伴走支援をしています。

左記二次元コードからお申し込みください。

締切：5月9日(金) 17時まで 一時保育が必要な場合は、締切までにお申し込みください。

〈問い合わせ先〉 三田市人権共生推進課

TEL：559-5148 FAX：563-7776



令和6年度
人権ポスター・標語受賞作品

すずかけ台小学校6年(前年度)
井口 鳳太さん



どんな時も
あなたはあなた
自分らしく

三輪小学校5年(前年度)
権田 璃海さん

くらしの人権相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜~金曜 9時~17時(※祝日・年末年始を除く)

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談(予約制)

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜~金曜 9時~17時(※祝日・年末年始を除く)
※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員による定例人権相談(予約制)

TEL 559-5148 FAX 563-7776
《次回相談日》5月22日(木) 13時~16時